

◎ 連合会・労協Gだより

大震災は、日本労協とイタリア労協との友好関係をいっそう親密にさせた。

急な訪伊だったが、アントニオ・フィネーリ氏の実力と懇切な手配で要請に応えてくれた。

ボローニャの中規模の建設協同組合と、全国建設事業連合(C・C・C)との交流。イモラのセラミック工場、サクミの工場(精密加工機械製造)の見学。ローマの建設協同組合の住宅(4F)建設現地の見学。フィレンツェで世界的な大理石エージェントとの面談など。その上、ボローニャ県のペトルルーエリ副知事、レガ・バスクーニン会長、アンチプル・プウツイ会長との会談が実現した。

レガ本部へは表敬訪問のつもりが、両会長が同席、予定の時間を大幅にこえて対応してくれた。見舞いの言葉を貰い、日本の労協がそれに立ち向い建設労協を作ろうとしていることへの共感と激励を受けた。心を開いての話で、イタリアでは、1909年メッシーナの地震を契機に協同組合が成長してきたと言う。

◎ センター事業団だより

沖縄で高齢者協同組合の取組みの一環として「長寿シンポジウム」を含んだツアーを企画(3/12~14)。45人が参加。高齢者協同組合設立のモデル地区の中で沖縄は、昨年夏から本島の全自治体を訪問、ほとんどの首長から賛同を得、県下の社会福祉協議会や高齢者組織、多くの医療関係者、更にはマスコミも巻き込んで大きな運動に発展させてきた。これまでの取組みを学び、間近に迫った設立総会へ向け大きなはずみをつけるのが目的。県下の全マスコミが報道したことも手伝って、様々な高齢者組織から問い合わせがあり更に大きなネットワークが広がりつつある。

第7次1.2.3.運動は過去最大の成果で締め括られようとしている。95年度から始まる第2次中期計画を前に労働者協同組合で取組む確信を深めることができたと思う。一つは「安全で安心な病院づくり」に私たちの「ヒノキチオール清掃」

東京地評議長で土建委員長の矢部さんが一緒だったことは、イタリア側に強い感銘を与えていた。

強大なイタリアの労協と、東京土建・日本労協のダイレクトな関係が生れる画期になったらと、つい、思ってしまう。

招請に応じて、フィネーリ氏と、レガ本部の建設プロジェクトのマウオリツォ・ジャッキー氏が来日、短期間の濃密なスケジュールを精力的に動いてくれた。その成果は大きい。深く感謝したい。

都合二週間、行動を共にして、イタリアの労協にとって最も困難な時期に奮闘している誠実なリーダーの姿を見ることができた。

色々な話しをしたが、フィネーリ氏が協同組合は、人と人の集団が必要とするから存在している。私の父も祖父も協同組合人だった。協同の文化の中で生活している。だから民間企業とちがって「企業を売ることができない」と言ったことが忘れられない。

中田 宗一郎(労協連合会・専務理事)

が大きな評価を受けたことである。これが圧倒的な行動力を生んでいる。次に全組合員経営の姿をいくつかの事業所が示しはじめたことである。良い仕事や話し合い、経理の公開といった基本的な取組みに関して、組合員一人一人が情報の発信人となり受信人になることで一つ一つの取組みが形式で終わらず中身の濃いものとなっている。全ての事業所の水準にしていけないといけない。多くの協力者を得たことも見逃せない。小豆沢病院の芹沢先生には50枚にも及ぶ紹介状を書いて頂いた。沖縄高齢者協同組合の代表でもある琉球大学医学部の武居洋先生も、沢山の紹介をして下さった。始まったばかりの盛岡日赤の院長・事務部長にも過分の励ましを頂いた。新しい広がりを実際に大切にしていきたい。

坂林 哲雄(労協センター事業団・事務局長)